

## 平成22年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

## 1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A)     特定共同研究(B)     特定共同研究(C)     一般共同研究  
 地震・火山噴火予知研究     施設・実験装置・観測機器等の利用  
 データ・資料等の利用     研究集会

2. 課題番号または共同利用コード 2010 - G - 09

## 3. プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文: WIN システムの 64 ビット環境への対応 (2)

英文: \_\_\_\_\_

4. 研究代表者所属・氏名 九州大学大学院理学研究院・植平 賢司(地震研究所担当教員名) 卜部 卓・鶴岡 弘・中川茂樹

## 5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給

## 6. 研究内容 (コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入)

キーワード: WIN システム、64 ビット化、汎用環境

WIN システムは、地震のフェーズの検測や解析、大学・気象庁・防災科学技術研究所などの機関間のデータ交換に広く使われている UNIX 上で動くシステムである。近年、コンピュータの 64 ビット化が進み、最近では様々なソフトウェアが対応するようになったことから、安価な汎用のコンピュータでも 64 ビット環境が普及してきた。そのような背景の中、平成 22 年度では一般共同研究 (2009-G-06) として採択された研究により、64 ビット環境も含めた汎用環境で WIN システムを動かすための開発を行い、19 のプログラムについて対応を行った。今年度は、残りの主要なすべてのプログラムについて対応を行い、FreeBSD 及び、MacOSX での 64 ビット環境での動作試験を行った。また、開発したプログラム群は、すべて東京大学地震研究所のホームページ上で公開を行っており、広くユーザに使ってもらい、不具合があれば対応を行っている。本年度の研究をもって、WIN システムの 64 ビット環境への対応が完了した。

7. 研究実績報告 (公表された成果のリスト\*<sup>1</sup>または 2000~3000 字の報告書)(\*<sup>1</sup>論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと)

・植平賢司・卜部 卓・鶴岡 弘・中川茂樹、WIN システムの 64bit 環境への対応、日本地震学会 2010 年秋季大会、2010.10.27.、謝辞への記載あり、4 ポイント

・植平賢司、九州大学における JGN-X 及び SINET4 への移行と、WIN システムの 64 ビット環境への対応、データ流通ワークショップ、2011.03.31.、謝辞への記載あり、5 ポイント